

技術者・研究者のための実験計画法入門

ホームページURL：<https://www.rdsc.co.jp/course/ce260401>

【講座番号】：ce260401 【開講日】：2026年4月21日(月) ※4月、5月、6月の3か月コースです。
【受講料】：1名につき：44,000円(税込、テキスト代込)、2名同時申込み：55,000円、3名同時申込み：66,000円、4名以降は1名につき22,000円です。

指導講師：著述家 高橋 信 氏
＜ご専門＞ 統計学・マーケティングリサーチ ＜学協会＞ 日本統計学会

開講日に合わせてテキストを郵送しますが、それ以降の演習問題・回答の提出、添削結果の返送は、電子メールにて行ないます(形式は基本的にMicrosoft Office Word)。詳細内容やスケジュールはHPでご確認下さい。⇒⇒⇒ <https://www.rdsc.co.jp/course/ce260401>

I. 実験計画法の基礎知識

第1講では、実験計画法そのものというよりも、実験計画法を学ぶための基礎知識を解説します。少しでも早く実験計画法をマスターしたい人にはちょっと退屈に感じられるかもしれませんが、でも、「急がば回れ」です。あせらずじっくりやっていきましょう。

【プログラム】	
第1章 実験計画法とは？ 1. 実験計画法 2. データ分析の取り組み方	第3章 統計的仮説検定 1. 統計的仮説検定 1.1 統計的仮説検定 1.2 注意 1.3 統計的仮説検定の手順 2. 帰無仮説と対立仮説 2.1 統計的仮説検定の種類と帰無仮説と対立仮説 2.2 注意 3. 母平均の差の検定 4. 「帰無仮説は誤っているとはいえない」 5. P値と統計的仮説検定の手順
第2章 統計学の基礎知識 1. 統計学 2. データの分類 3. 平方和と分散と標準偏差 4. 確率密度関数	【演習問題】

II. この変数が因果の「因」と言えるか確かめたい ～分散分析～

第2講では、実験計画法の基本といえる、一元配置分散分析と二元配置分散分析を主に解説します。第1講よりも数学的な水準が上がります。とはいえ第1講をしっかり学んでいれば、それほど難しくは感じられないはずです。安心してください。

【プログラム】	
第4章 一元配置分散分析 1. 一元配置分散分析 2. 具体例 3. その後の分析	3. 繰り返しのある場合の二元配置分散分析 3.1 具体例 3.2 検定統計量の値の計算方法 3.3 分散分析表 3.4 その後の分析 4. プーリング 4.1 プーリング 4.2 注意
第5章 二元配置分散分析 1. 二元配置分散分析 2. 繰り返しのない場合の具体例 2.1 具体例 2.2 検定統計量の値の計算方法 2.3 分散分析表 2.4 その後の分析	第6章 実験の望ましい順番 1. 実験の原則 2. 乱塊法と分割法

III. 因果の「因」に相当する変数を見つけたい ～直交配列表実験～

第3講では、探索型のデータ分析に対応する、直交配列表実験を解説します。

【プログラム】	
第7章 直交配列表実験 1. 直交配列表実験 2. 直交配列表 2.1 直交配列表の種類 2.2 直交配列表という名称の由来 2.3 直交配列表の利用方法 3. 直交配列表実験の難点 3.1 直交配列表実験の難点 3.2 変数を割り付けてはいけない列の確認 3.3 直交配列表の数学的特徴 4. 具体例	付録1 回帰分析と重回帰分析 付録2 応答曲面法 付録3 多重比較法
【演習問題】	

通信教育講座 申込書 FAX：03-5857-4812 ※ホームページからお申し込みできます。					
テーマ名	実験計画法				
住所	〒				
会社・大学				TEL	
氏名①	所属		E-Mail		
氏名②	所属		E-Mail		
氏名③	所属		E-Mail		
会員登録(無料)	<input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> 郵送		複数選択可能です。会員登録していただくと、セミナー受講料の割引などを適用いたします。入会費や年会費はかかりません。なお通信教育講座の受講申し込みをされる際は、登録の有無に関わらず、必ず上記にメールアドレスを必ずご記入下さい。		